



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバスイ覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	水1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20111095354699	科目番号	10953546
授業科目名	●天文学		
編集担当教員	長島 雅裕		
授業担当教員名(科目責任者)	長島 雅裕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長島 雅裕		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	教育学部以外		
担当教員Eメールアドレス	masahiro@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	413		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	現代天文学の基礎を理解する。天文学の最先端のトピックと天文学の基礎とのかかわりを学ぶ。物理学的世界観を身につける。		
授業方法(学習指導法)	講義の内容は、指定した教科書より深い物理学的理解や最先端のトピックなどを与えるが、講義をより良く理解するためには、教科書の内容は高校物理の知識で十分理解できるように書かれているので、予習・復習に努めることが望ましい。		
授業到達目標	現代天文学の基礎を理解する。天文学の最先端のトピックと天文学の基礎とのかかわりを学ぶ。物理学的世界観を身につける。		
授業内容	<p>授業のねらい 現代天文学の基礎を理解する。天文学の最先端のトピックと天文学の基礎とのかかわりを学ぶ。物理学的世界観を身につける。</p> <p>授業計画・内容</p> <p>第1回 近代天文学の成立 物理学の誕生とともに</p> <p>第2回 太陽系の姿(1) 太陽と惑星</p> <p>第3回 太陽系の姿(2) 準惑星、太陽系小天体</p> <p>第4回 星形成、太陽系の形成</p> <p>第5回 太陽系外惑星</p> <p>第6回 天体の距離と光度</p> <p>第7回 星のHR図</p> <p>第8回 星の進化 星のエネルギー源と核反応</p> <p>第9回 星の進化</p>		

	<p>星のスペクトルと前期量子論</p> <p>第10回 銀河系と銀河</p> <p>第11回 膨張宇宙 ハッブルの法則、遠方天体の距離の測定方法</p> <p>第12回 宇宙の進化 フリードマン方程式</p> <p>第13回 ビッグバン宇宙 初期宇宙(インフレーション)と元素合成</p> <p>第14回 宇宙背景輻射、構造形成、銀河形成</p> <p>第15回 まとめ</p>
キーワード	天文学、宇宙物理学
教科書・教材・参考書	<p>教科書: 「宇宙の科学 天文学入門」(Bryan Milner, 坪田幸政訳、丸善)</p> <p>参考書: 「宇宙科学入門」(尾崎洋二、東京大学出版会)、 「天文学への招待」(岡村定矩・編、朝倉書店)</p>
成績評価の方法・基準等	<p>合格水準 現代天文学の考え方を理解していること。 例えば、新聞に出てくる天文記事について、記事の表面に出てこない物理的な理解について予想をたてて述べられるようになる。</p> <p>評価方法 講義への積極的な参加意識(2割)、宿題・レポート(3割)、試験(5割)から総合的に判断する。</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	「新しい高校物理の教科書」(山本明利、左巻健男、講談社ブルーバックス)などを読んで、高校物理を復習しておくことが望ましい。





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

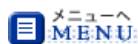


学期	後期	曜日・校時	水4
開講期間			
必修選択	必, 選択	単位数	2.0
時間割コード	20111095429899	科目番号	10954298
授業科目名	●衛生学及び公衆衛生学		
編集担当教員	菅原 正志		
授業担当教員名(科目責任者)	菅原 正志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	菅原 正志		
科目分類	教科(必修)、開放科目、教科(中学校)、教科		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	教育学部以外		
担当教員Eメールアドレス	sugahara@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	108研究室		
担当教員TEL	095-819-2355		
担当教員オフィスパワー	12:00-12:50		
授業のねらい	健康にとって望ましい環境の整備、健康の保持と積極的増進、疾病・傷害への対策、さらに社会福祉・社会保障制度を学ぶことにより、生活習慣病の予防や個人の適切なライフスタイルの確立等を理解する。		
授業方法(学習指導法)	健康にとって望ましい環境の整備、健康の保持と積極的増進、疾病・傷害への対策、さらに社会福祉・社会保障制度を習得する。		
授業到達目標	生活習慣病の予防や個人の適切なライフスタイルの確立を目指す。		
授業内容	衛生学は個人を対象とした基礎科学であり、公衆衛生学は公衆への応用科学である。このことは、個人及び公衆の健康の保持と増進を目指す総合科学といっても過言ではなく、これらの内容を講義する。		
	回	内容	
	1	予防医学、疫学調査、スクリーニング	
	2	人口(世界人口、日本人口)	
	3	保健、感染症の疫学(3大要因の解説)	
	4	感受性、免疫、伝染病予防法、消毒	
	5	主要伝染病(各論)	
	6	母子保健、学校保健	
	7	老人保健、精神保健	
	8	生活環境、飲料水	
	9	下水処理、廃棄物	
	10	室内環境、空気環境、塵埃、温熱環境、採光・照明、衣服	
	11	栄養と健康、食中毒	
	12	公害(歴史的事件含む)、被害の救済	
	13	産業衛生、労働環境、産業疲労職業病	
	14	衛生統計、出生、死亡、死因順位、生命表(生命関数)、疾病統計	
15	衛生行政、医療費		
16			

キーワード	
教科書・教材・参考書	「シンプル衛生公衆衛生学2011」南江堂
成績評価の方法・基準等	授業レポート(20%)、筆記試験(80%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火3,火4																																																				
開講期間																																																							
必修選択	選択	単位数	4.0																																																				
時間割コード	20111515003599	科目番号	15150035																																																				
授業科目名	●行政法																																																						
編集担当教員	海野 敦史																																																						
授業担当教員名(科目責任者)	海野 敦史																																																						
授業担当教員名(オムニバス科目等)	海野 敦史																																																						
科目分類	開放科目																																																						
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																																				
教室																																																							
対象学生(クラス等)	経済学部以外																																																						
担当教員Eメールアドレス	umino@nagasaki-u.ac.jp																																																						
担当教員研究室	東南アジア研究所203																																																						
担当教員TEL																																																							
担当教員オフィスアワー	木曜日12時～12時50分(来室の際は事前連絡のこと)																																																						
授業のねらい	「行政法」について、体系的に学習します。我々の生活は行政との関わりなしには成り立たないと言っても過言ではなく、その意味で行政法がとても身近でかつ重要な法律であることを踏まえ、初学者にもわかりやすく、その大要を説明します。法律の規定を「暗記」するのではなく、行政に関する法の基本的な原理の「理解」できるようになることをねらいとします。																																																						
授業方法(学習指導法)	原則として教科書(及び六法)を使用しながら、それに沿って講義形式で進めていきます。ただし、教科書の出版がやや遅れる見込みのため、それまでの間は、暫定的に教科書なしで講義します(講義時に教科書の具体的な出版時期を連絡します)。																																																						
授業到達目標	行政法のあらましについて把握しつつ、公務員試験等の各種資格試験に非常に有用となる知識も会得しながら、行政法の法理について適切に理解できるようになることを目標とします。また、法を解釈する力を身につけることを併せて目標とします。																																																						
授業内容	<p>最初の3回で行政法のあらましと行政法理の基本的な考え方について説明し、第4回～第8回は行政組織法、第9回～第22回は行政作用法、第23回～第30回は行政救済法について説明する予定です。最終回は講義の総括を行います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行政法のあらまし</td> <td>17</td> <td>即時強制</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行政法の一般原則(1)</td> <td>18</td> <td>行政上の義務履行確保制度</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行政法の一般原則(2)</td> <td>19</td> <td>行政上の制裁</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行政組織</td> <td>20</td> <td>行政手続</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>地方自治(1)</td> <td>21</td> <td>情報管理(1) 情報公開</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>地方自治(2)</td> <td>22</td> <td>情報管理(2) 個人情報保護等</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>公務員法</td> <td>23</td> <td>行政不服申立て</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>公物法</td> <td>24</td> <td>行政訴訟(1)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>行政立法</td> <td>25</td> <td>行政訴訟(2)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>行政行為(1)</td> <td>26</td> <td>行政訴訟(3)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>行政行為(2)</td> <td>27</td> <td>行政訴訟(4)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>行政行為(3)</td> <td>28</td> <td>国家賠償(1)</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	回	内容	1	行政法のあらまし	17	即時強制	2	行政法の一般原則(1)	18	行政上の義務履行確保制度	3	行政法の一般原則(2)	19	行政上の制裁	4	行政組織	20	行政手続	5	地方自治(1)	21	情報管理(1) 情報公開	6	地方自治(2)	22	情報管理(2) 個人情報保護等	7	公務員法	23	行政不服申立て	8	公物法	24	行政訴訟(1)	9	行政立法	25	行政訴訟(2)	10	行政行為(1)	26	行政訴訟(3)	11	行政行為(2)	27	行政訴訟(4)	12	行政行為(3)	28	国家賠償(1)
回	内容	回	内容																																																				
1	行政法のあらまし	17	即時強制																																																				
2	行政法の一般原則(1)	18	行政上の義務履行確保制度																																																				
3	行政法の一般原則(2)	19	行政上の制裁																																																				
4	行政組織	20	行政手続																																																				
5	地方自治(1)	21	情報管理(1) 情報公開																																																				
6	地方自治(2)	22	情報管理(2) 個人情報保護等																																																				
7	公務員法	23	行政不服申立て																																																				
8	公物法	24	行政訴訟(1)																																																				
9	行政立法	25	行政訴訟(2)																																																				
10	行政行為(1)	26	行政訴訟(3)																																																				
11	行政行為(2)	27	行政訴訟(4)																																																				
12	行政行為(3)	28	国家賠償(1)																																																				

	13	行政契約	29	国家賠償(2)
	14	行政指導	30	損失補償
	15	行政計画	31	授業の総括
	16	行政調査		
キーワード	行政行為、法律による行政の原理、行政指導、抗告訴訟、国家賠償			
教科書・教材・参考書	海野敦史『行政法綱領』（晃洋書房、2011年4月下旬出版予定）			
成績評価の方法・基準等	定期試験(100%)。なお、定期試験時は、上記指定教科書のみ持込み可とします。			
受講要件(履修条件)	なし。全学部生に開放しています。			
本科目の位置づけ	開放科目			
学習・教育目標	行政法に親しみ、楽しく勉強できるよう、まずはその基礎知識の習得から始めていきたいと思ひます。行政法を内容とする各種資格試験等にもできるだけ役立つ内容としたいと考えています。			
備考(URL)				
備考(準備学習等)	定期試験の実施日が他の科目よりも若干早まる可能性があります。			



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月3,水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	4.0
時間割コード	20111515003799	科目番号	15150037
授業科目名	●経営管理論		
編集担当教員	林 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	林 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 徹		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	経済学部以外、2年次以上		
担当教員Eメールアドレス	thaya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	本館627		
担当教員TEL	095-820-6368		
担当教員オフィスパワー	講義時に案内します。		
授業のねらい	授業のねらい： 折しも、2010年におけるチリ落盤事故や同年における『もしドラ』(岩崎夏海『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』ダイヤモンド社)のヒット以来、わが国でにわかに注目を集めている「経営管理」を取り扱う。アメリカにおける経営学説を中心に「経営管理」を体系的に講解する。そのなかで、担当者がどのように学説と対峙し、自説を展開するに至ったかについて、そのあらましにも触れる。		
授業方法(学習指導法)	パワーポイントによる。但し、半分(偶数回)は関連する外書講読とする。並行して、レポート課題を課す。		
授業到達目標	「経営管理」に関する基礎的な専門用語、学説の概要と流れ、学際面の把握、社会科学における理論的研究の基礎を身につける。		
授業内容	第1-2回 ガイダンス(進行、単位認定、講義案)、基礎概念の確認 第3-4回 公式組織と経営者の役割 第5-6回 戦略策定の社会システム論 第7-8回 ステイクホルダー 第9-10回 管理過程学派批判 第11-12回 情報メディア・リッチネス 第12-13回 行為の意図せざる結果 第14-15回 真の管理主体 第16-17回 権限と権威の理論 第18-19回 パワーⅠ 第20-21回 パワーⅡ 第22-23回 時間と時間感覚 第24-25回 アートとしての管理		

	第25-26回 管理対象の境界 第27-28回 学会消息と展望 第29-30回 総括(外書講読の復習を含む) 第31回 試験
キーワード	経営、管理、管理者、ステイクホルダー、パワー、時間感覚、アート
教科書・教材・参考書	参考書 林徹(2005)『組織のパワーとリズム』中央経済社。 林徹(2000)『革新と組織の経営学』中央経済社。
成績評価の方法・基準等	定期試験(70%)、課題レポート(30%)。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	時流に流されることなく、経営管理の基礎を習得すること。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

2011年度 後期	曜日・校時 水曜日3校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目(英語名)	総合経済 a (Management and Economics a)		
対象年次(標準履修年次)	2年、3年、4年	講義形態 講義	教室 講堂
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー			
<p>松本睦樹 (MATUMOTO-Mutuki) Eメールアドレス: mutuki@nagasaki-u.ac /研究室: 経済学部本館5階511/ TEL: 095-820-6358</p>			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標			
<p>授業のねらい: さまざまな業界の第一線で活躍する若手や中堅の方々による現場での活動に関する講義を通じて、現代社会経済の仕組みについての理解を深め、またさまざまな業界のことを知ることによって学生の職業意識を高めることをねらいとする。</p> <p>授業方法: 第一線で活躍する方によるオムニバス講義</p> <p>授業到達目標: 具体的な講義を通じて、経済や経営に関する知識と実際の業界での活動との関連を理解し、自らの職業選択に役立てること。</p>			
授業内容(概要) / 授業内容(各回の授業内容)			
<p>第1回(10月5日) 「キャリア意識を高めよう！」 松本就職委員長</p> <p>第2回(10月12日) 「低炭素社会の実現に向けた都市ガス事業者の取り組み」 【講師】西部ガス(株) 山下 秋史</p> <p>第3回(10月19日) 「2度の海外勤務を通して学んだこと」 【講師】三菱重工業(株) 濱崎 理</p> <p>第4回(10月26日) 「アイデアを実現する力とは」 【講師】極東ファディ(株) 秋本 修治</p> <p>第5回(11月2日) 「職業選択と家業」 (パネルディスカッション) 【講師】(有)高野屋 高野 正安、雪澤税理士事務所 雪澤 知之、安達(株) 安達 健太郎</p> <p>第6回(11月9日) 「損害保険の仕組みと役割、企業が求める人材」 【講師】(株)損害保険ジャパン 古野 真一郎</p> <p>第7回(11月16日) 「地域に根ざして」 (パネルディスカッション) 【講師】長崎県議会議員 川崎 祥司、(株)鹿島スズキプラザ21 藤松 義将、大分県 関 隆晴</p> <p>第8回(11月30日) 「西鉄による都市開発とビジネスホテル事情(仮題)」 【講師】(株)西鉄ホテルズ 石田 崇宏</p> <p>第9回(12月7日) 「企業が求めている人材について」 【講師】税理士法人アップパートナーズ 溝越 正</p> <p>第10回(12月14日) 「半導体企業の経理をとおして学んだこと」 【講師】(株)テラプローブ 檜崎 利典</p> <p>第11回(12月21日) 「地域金融機関の特性・役割、ローカルの強み弱み」 【講師】たちばな信用金庫 三井 かやみ</p> <p>第12回(1月11日) 「建設業界の現状とその中で文系学生が行う業務」 【講師】(株)九電工 篠崎 純久</p> <p>第13回(1月18日) 「企業が求める人材」 【講師】(株)福岡銀行 津村 貴祥</p> <p>第14回(1月25日) 「これって印刷会社の仕事(製品)!？」 【講師】凸版印刷(株) 國友 啓章</p>			

第 15 回 (2 月 1 日) 「新聞社の仕事とワーク・ライフ・バランス (仮)」

【講師】(株)長崎新聞社 吉岡 和佳子

キーワード	
教科書・教材・参考書	特に指定しない
成績評価の方法・基準等	基本的には毎回のレポートの得点に基づいて評定するが、詳しくは第 1 回の講義において説明する。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ/学習・教育目標	
備考(準備学習等)	毎回講義終了時に質疑の時間を設ける予定です。質問を歓迎します。 受講生が多い場合、制限をすることがあります。



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木1																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20111515010799	科目番号	15150107																																
授業科目名	●知的財産法																																		
編集担当教員	岡本 芳太郎																																		
授業担当教員名(科目責任者)	岡本 芳太郎																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡本 芳太郎																																		
科目分類	開放科目																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																
教室																																			
対象学生(クラス等)	経済学部以外																																		
担当教員Eメールアドレス	yokamoto@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	経済学部本館607研究室																																		
担当教員TEL	095-820-6329(内線6329)																																		
担当教員オフィスアワー	木曜日12:30-14:20																																		
授業のねらい	知的財産権の取得及び活用等についての基本的な知識を得ることを目的とする。																																		
授業方法(学習指導法)	主にレジュメに基づく講義形式で行うが、随時、小テストを実施する。テキストは主に自宅学習用とする。																																		
授業到達目標	知的財産に関する用語の意味を理解し、簡単な知的財産権の取得や侵害の事例について法的判断を下せるとともに、新たな知的財産問題を理解できることを目標とする。																																		
授業内容	<p>知的財産法は、技術、営業標識から映像・音楽等のコンテンツまでを幅広くカバーする財産権である。2002年の知的財産基本法制定前後から、知的財産法はもちろん関連する種々の領域において、有力な知的財産の創出のための保護の強化とその活用のための戦略立案や流通基盤の整備等を目的として種々の改革が行われている。講義は、主に(1)特許権の対象、保護要件、権利内容等、(2)著作権の対象、保護要件、権利内容等、(3)その他の知的財産権の対象、保護要件、権利内容等の3つに分かれる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>知的財産権とは何か</td></tr> <tr><td>2</td><td>特許権(1) 対象と登録要件</td></tr> <tr><td>3</td><td>特許権(2) 発明者・取得手続</td></tr> <tr><td>4</td><td>特許権(3) 特許発明の技術的範囲</td></tr> <tr><td>5</td><td>特許権(4) 特許発明の実施</td></tr> <tr><td>6</td><td>特許権(5) 特許権侵害訴訟等</td></tr> <tr><td>7</td><td>著作権(1) 著作物と著作者</td></tr> <tr><td>8</td><td>著作権(2) 著作権と著作隣接権</td></tr> <tr><td>9</td><td>著作権(3) 著作権の制限</td></tr> <tr><td>10</td><td>著作権(4) 著作権の利用・パブリシティ権他</td></tr> <tr><td>11</td><td>商標権(1) 対象と登録要件</td></tr> <tr><td>12</td><td>商標権(2) 商標の使用と商標権侵害</td></tr> <tr><td>13</td><td>意匠権・育成者権・営業秘密他</td></tr> <tr><td>14</td><td>知的財産権の国際展開</td></tr> <tr><td>15</td><td>知的財産の活用戦略と価値評価</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	知的財産権とは何か	2	特許権(1) 対象と登録要件	3	特許権(2) 発明者・取得手続	4	特許権(3) 特許発明の技術的範囲	5	特許権(4) 特許発明の実施	6	特許権(5) 特許権侵害訴訟等	7	著作権(1) 著作物と著作者	8	著作権(2) 著作権と著作隣接権	9	著作権(3) 著作権の制限	10	著作権(4) 著作権の利用・パブリシティ権他	11	商標権(1) 対象と登録要件	12	商標権(2) 商標の使用と商標権侵害	13	意匠権・育成者権・営業秘密他	14	知的財産権の国際展開	15	知的財産の活用戦略と価値評価
回	内容																																		
1	知的財産権とは何か																																		
2	特許権(1) 対象と登録要件																																		
3	特許権(2) 発明者・取得手続																																		
4	特許権(3) 特許発明の技術的範囲																																		
5	特許権(4) 特許発明の実施																																		
6	特許権(5) 特許権侵害訴訟等																																		
7	著作権(1) 著作物と著作者																																		
8	著作権(2) 著作権と著作隣接権																																		
9	著作権(3) 著作権の制限																																		
10	著作権(4) 著作権の利用・パブリシティ権他																																		
11	商標権(1) 対象と登録要件																																		
12	商標権(2) 商標の使用と商標権侵害																																		
13	意匠権・育成者権・営業秘密他																																		
14	知的財産権の国際展開																																		
15	知的財産の活用戦略と価値評価																																		

	16 まとめ(試験を含む)
キーワード	知的財産 特許権 著作権 商標権 意匠権 営業秘密 不正競争 独占禁止法 準拠法 国際裁判管轄
教科書・教材・参考書	テキスト「知的財産法入門 第12版」土肥一史 中央経済社 2010年3月(又はその改訂版) なお、特許法等の知的財産法が掲載されている六法を用意することが望ましい。
成績評価の方法・基準等	定期試験70%、授業への寄与度15%、小テスト15%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	知的財産の管理・活用についての基本的な内容はカバーするが、弁理士等の知的財産関係の専門的な資格を取得するためにはよりつっこんだ学習が必要である。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

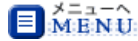


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



メニューへ



ログアウト



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20111515006399	科目番号	15150063
授業科目名	●言語コミュニケーション(独語)		
編集担当教員	仲井 幹也		
授業担当教員名(科目責任者)	仲井 幹也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	仲井 幹也		
科目分類	開放科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	経済学部以外、2・3・4年次		
担当教員Eメールアドレス	m-nakai@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館524研究室		
担当教員TEL	095-820-6399		
担当教員オフィスアワー	木曜12:00～12:50		
授業のねらい	ドイツと日本の出来事を報じたドイツ語のテキストを用いて、分量の少ない平易なものから徐々に分量と難易度を増して段階的にドイツ語の報道記事に慣れていき、最終的には各自が独力でドイツ語のニュースを読めるようになることを目指す。		
授業方法(学習指導法)	数年前から最近までのドイツ語のニュースから選んで読み、報道記事に特徴的な言い回しやよく使われる文法事項を学ぶ。ニュースに現れる社会背景の彼我の違いについても解説し、それに対し学生諸君も意見や感想を述べてもらう。		
授業到達目標	インターネットで読めるような短いドイツ語のニュースを辞書を使って独力で読めるようにする。		
授業内容	教科書・プリントに添って、読解、文法説明、練習問題をやる。		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	最近のニュースから	
	3	最近のニュースから	
	4	最近のニュースから	
	5	Dデイ記念式典	
	6	Dデイ記念式典	
	7	長崎平和祈念式典	
	8	長崎平和祈念式典	
	9	日朝実務者協議	
	10	最近のニュースから	
	11	最近のニュースから	
	12	ドイツ青少年の喫煙問題	
	13	ドイツ青少年の喫煙問題	
	14	最近のニュースから	
15	最近のニュースから		

	16 授業の総括(試験を含む)
キーワード	
教科書・教材・参考書	仲井幹也『ニュースを読もう、ドイツと日本』同学社。それ以外は随時プリントで。
成績評価の方法・基準等	筆記試験50%、平常点50%。したがって欠席が多い人、出席しても予習していない人は単位を取れません。就職活動で忙しい時期は出席回数ではなく訳の担当回数で平常点を判断します。
受講要件(履修条件)	全学教育のドイツ語履修者
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

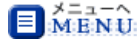


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1799秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	水1,木1																																																																
開講期間																																																																			
必修選択	選択	単位数	1.5																																																																
時間割コード	20112501410499	科目番号	25014104																																																																
授業科目名	●生理学																																																																		
編集担当教員	戸田 一雄																																																																		
授業担当教員名(科目責任者)	戸田 一雄																																																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	戸田 一雄																																																																		
科目分類	開放科目																																																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																																																
教室																																																																			
対象学生(クラス等)	全学部(歯学部以外)																																																																		
担当教員Eメールアドレス	k-toda@nagasaki-u.ac.jp																																																																		
担当教員研究室	歯学部A棟4階401号室																																																																		
担当教員TEL	095-819-7636																																																																		
担当教員オフィスアワー	水曜日 17:00-18:00																																																																		
授業のねらい	身体を構成する組織と器官の機能を理解し、これらの個体への統合をめざすことがねらいである。																																																																		
授業方法(学習指導法)	液晶プロジェクターや板書で授業を進め、必要に応じてプリントを配布する。																																																																		
授業到達目標	神経系の機能を説明できる。運動系の機能を説明できる。感覚系の機能を説明できる。循環器系の機能を説明できる。呼吸器系の機能を説明できる。泌尿器系の機能を説明できる。内分泌系の機能を説明できる。																																																																		
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>生理学序説 4月 7日(木) 岡田 幸雄</td> <td>17</td> <td>感覚総論・体性感覚 7月 6日(水) 戸田 一雄</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>細胞機能の基礎 4月14日(木) 岡田 幸雄</td> <td>18</td> <td>聴覚・平衡感覚 7月 7日(木) 戸田 一雄</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>細胞の興奮 I 4月21日(木) 藤山 理恵</td> <td>19</td> <td>視覚 7月13日(水) 藤山 理恵</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>細胞の興奮 II 4月28日(木) 藤山 理恵</td> <td>20</td> <td>脳の統合機能 I 7月14日(木) 戸田 一雄</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>シナプス伝達 I 5月12日(木) 岡田 幸雄</td> <td>21</td> <td>脳の統合機能 II 7月20日(水) 戸田 一雄</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>シナプス伝達 II 5月19日(木) 岡田 幸雄</td> <td>22</td> <td>まとめ 7月21日(木) 戸田 一雄 他</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>自律神経 5月26日(木) 岡田 幸雄</td> <td>23</td> <td>定期考査</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>内分泌 6月 2日(木) 戸田 一雄</td> <td>24</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>生殖・排泄 6月 8日(水) 岡田 幸雄</td> <td>25</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>血液 6月 9日(木) 岡田 幸雄</td> <td>26</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>心臓 6月15日(水) 藤山 理恵</td> <td>27</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>循環 6月16日(木) 藤山 理恵</td> <td>28</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>呼吸 6月22日(水) 岡田 幸雄</td> <td>29</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>骨格筋の収縮 6月23日(木) 岡田 幸雄</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>運動系 I 6月29日(水) 戸田 一雄</td> <td>31</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	回	内容	1	生理学序説 4月 7日(木) 岡田 幸雄	17	感覚総論・体性感覚 7月 6日(水) 戸田 一雄	2	細胞機能の基礎 4月14日(木) 岡田 幸雄	18	聴覚・平衡感覚 7月 7日(木) 戸田 一雄	3	細胞の興奮 I 4月21日(木) 藤山 理恵	19	視覚 7月13日(水) 藤山 理恵	4	細胞の興奮 II 4月28日(木) 藤山 理恵	20	脳の統合機能 I 7月14日(木) 戸田 一雄	5	シナプス伝達 I 5月12日(木) 岡田 幸雄	21	脳の統合機能 II 7月20日(水) 戸田 一雄	6	シナプス伝達 II 5月19日(木) 岡田 幸雄	22	まとめ 7月21日(木) 戸田 一雄 他	7	自律神経 5月26日(木) 岡田 幸雄	23	定期考査	8	内分泌 6月 2日(木) 戸田 一雄	24		9	生殖・排泄 6月 8日(水) 岡田 幸雄	25		10	血液 6月 9日(木) 岡田 幸雄	26		11	心臓 6月15日(水) 藤山 理恵	27		12	循環 6月16日(木) 藤山 理恵	28		13	呼吸 6月22日(水) 岡田 幸雄	29		14	骨格筋の収縮 6月23日(木) 岡田 幸雄	30		15	運動系 I 6月29日(水) 戸田 一雄	31	
回	内容	回	内容																																																																
1	生理学序説 4月 7日(木) 岡田 幸雄	17	感覚総論・体性感覚 7月 6日(水) 戸田 一雄																																																																
2	細胞機能の基礎 4月14日(木) 岡田 幸雄	18	聴覚・平衡感覚 7月 7日(木) 戸田 一雄																																																																
3	細胞の興奮 I 4月21日(木) 藤山 理恵	19	視覚 7月13日(水) 藤山 理恵																																																																
4	細胞の興奮 II 4月28日(木) 藤山 理恵	20	脳の統合機能 I 7月14日(木) 戸田 一雄																																																																
5	シナプス伝達 I 5月12日(木) 岡田 幸雄	21	脳の統合機能 II 7月20日(水) 戸田 一雄																																																																
6	シナプス伝達 II 5月19日(木) 岡田 幸雄	22	まとめ 7月21日(木) 戸田 一雄 他																																																																
7	自律神経 5月26日(木) 岡田 幸雄	23	定期考査																																																																
8	内分泌 6月 2日(木) 戸田 一雄	24																																																																	
9	生殖・排泄 6月 8日(水) 岡田 幸雄	25																																																																	
10	血液 6月 9日(木) 岡田 幸雄	26																																																																	
11	心臓 6月15日(水) 藤山 理恵	27																																																																	
12	循環 6月16日(木) 藤山 理恵	28																																																																	
13	呼吸 6月22日(水) 岡田 幸雄	29																																																																	
14	骨格筋の収縮 6月23日(木) 岡田 幸雄	30																																																																	
15	運動系 I 6月29日(水) 戸田 一雄	31																																																																	

	16 運動系 II 6月30日(木) 戸田 一雄
キーワード	ホメオスタシス, 神経, 興奮, 反射, 感覚, 運動, 脳, 心臓, 血管, 肺, 腎臓, ホルモン
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。 参考書1: 生理学テキスト 第6版, 大地陸男著, 文光堂 参考書2: 基礎歯科生理学 第5版, 森本・山田編, 医歯薬出版 参考書3: 標準生理学 第7版, 小澤滯司ら編集, 医学書院 参考書4: 基礎解剖生理学 第3版, 戸田一雄ら著, おうふう出版 参考書5: ギャング生理学 原書23版, 岡田泰伸ら訳, 丸善
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な参加状況(30%), 期末試験の成績(70%)により評価する。
受講要件(履修条件)	特になし
本科目の位置づけ	口腔生命科学総論の1つである。
学習・教育目標	身体各構造の機能について必要な知識を習得する。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	細胞生物学を復習しておく。





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	1.0
時間割コード	20112502420499	科目番号	25024204
授業科目名	●口腔生化学		
編集担当教員	根本 孝幸		
授業担当教員名(科目責任者)	根本 孝幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	根本 孝幸		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(歯学部以外)		
担当教員Eメールアドレス	tnemoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	(坂本地区) 歯学部基礎研究棟(A棟)2F		
担当教員TEL	095-819-7640		
担当教員オフィスアワー	16:00-19:00		
授業のねらい	一般生化学で得た知識を元に、口腔領域、結合組織、硬組織に関する生化学を理解する。		
授業方法(学習指導法)	教科書の内容を中心に、プロジェクターを用いた講義を行う。WebClassを活用する。		
授業到達目標	(1) 結合組織成分の構造、機能、及びそれらの特徴を説明できる。(2) 骨と歯に特有な成分を列挙し、それらの機能を説明できる。(3) 硬組織の形成と吸収のしくみを説明できる。(4) 石灰化の機構及び血清カルシウムの恒常性とその調節機構を説明できる。(5) 唾液成分及び齲蝕に関する生化学を説明できる。(6) 炎症と免疫及びがん機構の概要を説明できる。		
授業内容	口腔組織における代謝や組織形成を生化学的、分子生物学的に理解する。また、歯科臨床における種々の課題は、生化学的研究方法によって解明されてきたことを知り、さらに、研究途上にある領域の現況を把握する。		
	回	内容	
	1	1章 硬組織の起源とその進化 10/5 根本 孝幸	
	2	2章 骨と歯の形づくりの分子メカニズム 10/12 根本 孝幸	
	3	3章 結合組織の生化学 10/19 馬場 友巳	
	4	4章 骨と歯に特有な有機成分 10/26 馬場 友巳	
	5	5章 骨と歯の無機成分 11/2 馬場 友巳	
	6	6章 硬組織の形成と吸収のしくみ 11/9 根本 孝幸	
	7	7章 石灰化の機構 11/16 根本 孝幸	
	8	特別講義:ホルモンとその伝達様式 11/30 石崎 明	
	9	8章 血清カルシウムの恒常性とその調節機構1 12/7 根本 孝幸	
	10	8章 血清カルシウムの恒常性とその調節機構2 12/14 根本 孝幸	
	11	9章 唾液の生化学 12/21 馬場 友巳	
	12	10章 プラーク 1/11 根本 優子	
	13	11章 齲蝕の生化学 1/18 根本 優子	
	14	12章 炎症と免疫 1/25 根本 優子	
	15	14章 がんはどうしてできるか 2/1 根本 孝幸	

	16 定期考査
キーワード	結合組織, 硬組織, コラーゲン, カルシウム, ヒドロキシアパタイト, pH, 齲蝕, 免疫, 発癌
教科書・教材・参考書	教科書: 口腔生化学 第4版 早川太郎他 著 (医歯薬出版) 参考書: 唾液 歯と口腔の健康 (医歯薬出版), Oral Microbiology 5th ed. (Elsevier)
成績評価の方法・基準等	定期試験 90%。レポート(WebClass問題を含む) 10%。毎回の「質問&内容カード」の質問内容によっては加点することがある(<5%)。
受講要件(履修条件)	履修上の注意: 原則として全回出席しなければ単位は成立しない。ただし、やむを得ず欠席する場合は、個別指導を行う。
本科目の位置づけ	生命現象の一部として口腔生化学を捉え、授業を通じて科学的思考方法の涵養を計る。
学習・教育目標	臨床科目の学習の基盤として口腔生化学の十分な知識を得ることを目的とする。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	教科書, WebClassでの予習復習が必須。





タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	1.0
時間割コード	20112501410899	科目番号	25014108
授業科目名	●歯科理工学 I		
編集担当教員	渡邊 郁哉		
授業担当教員名(科目責任者)	渡邊 郁哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	渡邊 郁哉		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(歯学部以外)		
担当教員Eメールアドレス	ikuyaw@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医歯薬学総合研究科生体材料学分野教授室		
担当教員TEL	095-819-7656		
担当教員オフィサー			
授業のねらい	種々の歯科材料の機械的、物理的、化学的性質を正しく理解するために必要な基礎的知識を身につける。また、歯科精密鑄造法と鑄造関連諸材料の特性を理解する。		
授業方法(学習指導法)	授業中に配付するプリントに基づいて講義する。理解を深めるため、OHPや液晶プロジェクターなどを適宜利用する。授業中に質問したり、課題を与えてレポート提出を求める場合がある。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 金属材料、セラミック材料、高分子材料、複合材料の構造と特徴を説明できる。 ○ 歯科生体材料の所要性質を説明できる。 ○ 各種歯科材料の物理的性質、化学的性質、機械的性質を説明できる。 ○ 歯科用陶材の組成、物性、成形技術を説明できる。 ○ 骨補填材料の種類と所要性質を説明できる。 ○ 歯科精密鑄造法の原理と特徴、鑄造欠陥の防止法を説明できる。 		
授業内容	<p>各種歯科材料の諸性質を正しく理解するために必要な基礎知識を材料科学の観点から解説する。材料の微視的構造と、その材料が発現するマクロな物性との間に密接な関係のあることを理解する。歯科材料の特性を生かした応用が出来るようになるための科学的知識を身につけることが大切である。</p> <p>授業内容：</p> <p>1回目：歯科材料と生体材料について概説し、歯科材料の所要性質を解説する。</p> <p>2回目：歯科材料の物理的性質について説明する。</p> <p>3回目：歯科材料の機械的性質について説明する。①</p> <p>4回目：歯科材料の機械的性質について説明する。②</p> <p>5回目：歯科材料の化学的性質について説明する。①</p> <p>6回目：歯科精密鑄造の工程と種々の鑄造法について説明する。</p> <p>7回目：合金の融解方法と鑄造法について説明する。</p> <p>8回目：鑄造収縮の要因を説明するとともに、鑄造収縮を補償するための具体的方法を解説する。</p> <p>9回目：金属の成形加工に関連する諸現象について説明する。</p> <p>10回目：鑄造欠陥の種類、成因、およびその防止策を解説する。</p> <p>11回目：人工歯根、骨補填材料の種類と所要性質について説明する。</p> <p>12回目：歯科材料の化学的性質について説明する。②</p> <p>13回目：接着の機構、接着強さの測定法、および接着部材の破壊様式を解説する。</p> <p>14回目：歯科用陶材の分類、組成、物性、成形技術を解説する。①</p> <p>15回目：歯科用陶材の分類、組成、物性、成形技術を解説する。②</p>		
キーワード	歯科材料, 生体材料, 接着, 陶材, 骨補填材料, 歯科精密鑄造		

教科書・教材・参考書	<ol style="list-style-type: none"> 1. スタンダード歯科理工学, 学建書院 2. 歯科材料学事典, 山根正次監修, 学建書院 3. スキンナー歯科材料学(上, 中, 下), 医歯薬出版 4. 歯科鑄造の話, 井田一夫著, クインテッセンス出版 5. 続・歯科鑄造の話, 井田一夫著, クインテッセンス出版
成績評価の方法・基準等	筆記試験(90%)と課題レポート等(10%)で評価する。定期試験のみでは範囲が広がるため、途中で範囲を限定して中間試験を実施することがある。追試験(特別な理由がある場合のみ1回)と再試験を実施する。再試験の評価は本試験の結果を考慮する。
受講要件(履修条件)	2/3以上の出席を受験資格とする。
本科目の位置づけ	口腔内や口腔外で使用される種々の歯科材料の性質を正しく理解し、優れた性質を引き出すために必要な基礎知識を習得する。
学習・教育目標	種々の歯科材料や生体材料の組成、構造、性質を説明できる。
備考(URL)	
備考(準備学習等)	予習と復習を確実に実行すること。授業中に配布するプリントを中心に授業を進めるが、理解を深めるために各自で教科書や参考書を準備すること。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金3																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20113002024099	科目番号	30020240																												
授業科目名	●基礎化学																														
編集担当教員	尾野村 治																														
授業担当教員名(科目責任者)	尾野村 治																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	尾野村 治, 栗山 正巳																														
科目分類	開放科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室																															
対象学生(クラス等)	1年(薬学部以外)																														
担当教員Eメールアドレス	onomura@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	薬学部3階東側医薬品合成化学研究室																														
担当教員TEL	095-819-2429																														
担当教員オフィスアワー	月-金9時-17時																														
授業のねらい	大学で有機化学を修得する上で基礎となる原子の構造、原子軌道に関する概念を学ぶ。これに基づいて種々の化学結合、分子の構造と混成軌道を理解し、それを反応に結びつける。また、分子の立体化学についてもイメージできるようになる。																														
授業方法(学習指導法)	予習、復習の手助けとなるように教科書に沿って学び、単に個々の現象を単独に理解するのではなく、より体系的に理解できるよう反応機構面からも学ぶ。なお、理解度をより深めるために毎回小テストを実施する。																														
授業到達目標	(1)電子配置と化学結合の形成、結合の開裂と生成の様式、混成軌道と分子の立体構造、立体障害と分子の安定性、分子構造と相対的応性、キラリティと旋光性を概説できる。 (2)基本的な化合物を命名できる。																														
授業内容	<p>授業の概要 教科書に沿って、化学結合と分子の構造、構造と反応性、アルカンの反応、シクロアルカンおよび立体異性体について順次講義を進める。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>原子の構造と電子配置</td></tr> <tr><td>2</td><td>分子軌道と共有結合</td></tr> <tr><td>3</td><td>混成軌道と分子の立体構造</td></tr> <tr><td>4</td><td>官能基、構造異性体、アルカンの命名規則</td></tr> <tr><td>5</td><td>アルカンの物理的性質、配座異性体</td></tr> <tr><td>6</td><td>化学反応の速度論および熱力学、酸と塩基</td></tr> <tr><td>7</td><td>結合の開裂: イオンとルラジカル</td></tr> <tr><td>8</td><td>演習</td></tr> <tr><td>9</td><td>アルカンの反応</td></tr> <tr><td>10</td><td>シクロアルカンの名称、歪みと安定性</td></tr> <tr><td>11</td><td>置換シクロヘキサンの立体配座、多環アルカン</td></tr> <tr><td>12</td><td>不斉と旋光性、絶対配置</td></tr> <tr><td>13</td><td>複数立体中心をもつ分子</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	原子の構造と電子配置	2	分子軌道と共有結合	3	混成軌道と分子の立体構造	4	官能基、構造異性体、アルカンの命名規則	5	アルカンの物理的性質、配座異性体	6	化学反応の速度論および熱力学、酸と塩基	7	結合の開裂: イオンとルラジカル	8	演習	9	アルカンの反応	10	シクロアルカンの名称、歪みと安定性	11	置換シクロヘキサンの立体配座、多環アルカン	12	不斉と旋光性、絶対配置	13	複数立体中心をもつ分子
回	内容																														
1	原子の構造と電子配置																														
2	分子軌道と共有結合																														
3	混成軌道と分子の立体構造																														
4	官能基、構造異性体、アルカンの命名規則																														
5	アルカンの物理的性質、配座異性体																														
6	化学反応の速度論および熱力学、酸と塩基																														
7	結合の開裂: イオンとルラジカル																														
8	演習																														
9	アルカンの反応																														
10	シクロアルカンの名称、歪みと安定性																														
11	置換シクロヘキサンの立体配座、多環アルカン																														
12	不斉と旋光性、絶対配置																														
13	複数立体中心をもつ分子																														

	14	化学反応における立体化学、エナンチオマーの分離
	15	演習
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書: 現代有機化学(上)、第4版、ボルハルト・ショアー著(化学同人)	
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取り組み状況および授業への貢献度(30%)、試験(70%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



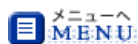
学期	後期	曜日・校時	金3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20113001084099	科目番号	30010840
授業科目名	●物理化学 I		
編集担当教員	甲斐 雅亮		
授業担当教員名(科目責任者)	甲斐 雅亮		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	甲斐 雅亮, 梶島 カ		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(薬学部以外)		
担当教員Eメールアドレス	梶島 カ / tsukaba@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部4階 機能性分子化学		
担当教員TEL	(直通)095-819-2439		
担当教員オフィスアワー	月-金12:00-18:00		
授業のねらい	薬学研究では、薬物と生体のかかわり、新薬の創製、生命現象の解明などが探求されている。このような研究を進展させるには、物質の状態変化を数値化して、分子レベルで分子の性質および化学変化を化学的に検証し、かつ論理的に解釈できることが極めて重要である。物理化学 I では、このような論理的思考力を養うことができる。		
授業方法(学習指導法)	教科書と演習課題を用いて講義する。		
授業到達目標	物理の数量的な扱い方を学習し、物質の性質、物質の状態変化などをエネルギーとして捉える考え方を理解できることが目標である。		
授業内容	下記の項目について、物質の状態とエネルギーとの関係を学習する。 1 物理力と単位 2 物質の状態と性質 3 エネルギーの概念 4 理想気体の仕事とエネルギー 5 内部エネルギー変化と熱力学第一法則 6 エンタルピーとエントロピー(1) 7 エンタルピーとエントロピー(2) 8 熱力学第二法則と第三法則 9 自由エネルギーの概念 10 自由エネルギー変化と化学平衡(1) 11 自由エネルギー変化と化学平衡(2) 12 電解質のモル伝導率 13 イオンの輸率と移動度 14 界面とコロイド 15 講義内容の総括		
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書: 薬学物理化学(廣川書店)、参考書: 授業中に紹介		
成績評価の方法・基準等	定期テスト(75%)、授業に対する積極的な態度(25%)		
受講要件(履修条件)	特になし		
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラム C1(1)物質の構造、C1(2)物質の状態I、C1(3)物質の状態II、に対応		
学習・教育目標			
備考(URL)			

備考(準備学習等)

教科書を事前に読んでおくこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

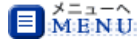


学期	後期	曜日・校時	木3																												
開講期間																															
必修選択	選択	単位数	2.0																												
時間割コード	20113001140099	科目番号	30011400																												
授業科目名	●有機化学 I																														
編集担当教員	畑山 範																														
授業担当教員名(科目責任者)	畑山 範																														
授業担当教員名(オムニバス科目等)	畑山 範,石原 淳																														
科目分類	開放科目																														
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																												
教室																															
対象学生(クラス等)	全学部(薬学部以外)																														
担当教員Eメールアドレス	susumi@nagasaki-u.ac.jp																														
担当教員研究室	薬学部3階 薬品製造化学																														
担当教員TEL	(直通)095-819-2426																														
担当教員オフィスアワー	月-金13:00-18:00																														
授業のねらい	有機化学 I では、有機化学を体系的に理解する一環として、基礎有機化学に引き続き、ハロアルカン、アルコール、エーテルの構造、性質、反応を学ぶ。																														
授業方法(学習指導法)	理解度を深め、予習、復習の手助けとなるよう教科書に沿って行い、単に個々の現象を単独に理解するのではなく、より体系的に理解できるよう反応機構面から解説を詳しく行う。なお、理解度をより深めるため、演習を適時行う。																														
授業到達目標	(1) ハロアルカン、アルコール、エーテルそれぞれの特徴的な物理化学的性質を説明できる。 (2) ハロアルカンを基質とする求核置換反応(SN2、SN1 反応)、脱離反応(E2、E1 反応)の特徴と反応機構を説明できる。 (3) アルコールとエーテルの合成法を説明できる。																														
授業内容	<p>有機化学の基本的な反応であるハロアルカン、アルコール、エーテルが関係する求核置換反応ならびに脱離反応について反応機構に重点を置き解説する。 16回2月10日定期試験予定</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ハロアルカンの性質と反応(求核置換反応、SN2 反応)について</td></tr> <tr><td>2</td><td>ハロアルカンの性質と反応(求核置換反応、SN2 反応)について</td></tr> <tr><td>3</td><td>ハロアルカンの反応(求核置換反応、SN1 反応)について</td></tr> <tr><td>4</td><td>ハロアルカンの反応(求核置換反応、SN1 反応)について</td></tr> <tr><td>5</td><td>ハロアルカンの反応(脱離反応、E1 反応)について</td></tr> <tr><td>6</td><td>ハロアルカンの反応(脱離反応、E1 反応)について</td></tr> <tr><td>7</td><td>ハロアルカンの反応(脱離反応、E2 反応)について</td></tr> <tr><td>8</td><td>ハロアルカンの反応(脱離反応、E2 反応)について</td></tr> <tr><td>9</td><td>SN2、SN1、E2、E1 反応についてのまとめ</td></tr> <tr><td>10</td><td>アルコールの性質と合成</td></tr> <tr><td>11</td><td>アルコールの性質と合成</td></tr> <tr><td>12</td><td>アルコールの反応について</td></tr> <tr><td>13</td><td>アルコールの反応について</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ハロアルカンの性質と反応(求核置換反応、SN2 反応)について	2	ハロアルカンの性質と反応(求核置換反応、SN2 反応)について	3	ハロアルカンの反応(求核置換反応、SN1 反応)について	4	ハロアルカンの反応(求核置換反応、SN1 反応)について	5	ハロアルカンの反応(脱離反応、E1 反応)について	6	ハロアルカンの反応(脱離反応、E1 反応)について	7	ハロアルカンの反応(脱離反応、E2 反応)について	8	ハロアルカンの反応(脱離反応、E2 反応)について	9	SN2、SN1、E2、E1 反応についてのまとめ	10	アルコールの性質と合成	11	アルコールの性質と合成	12	アルコールの反応について	13	アルコールの反応について
回	内容																														
1	ハロアルカンの性質と反応(求核置換反応、SN2 反応)について																														
2	ハロアルカンの性質と反応(求核置換反応、SN2 反応)について																														
3	ハロアルカンの反応(求核置換反応、SN1 反応)について																														
4	ハロアルカンの反応(求核置換反応、SN1 反応)について																														
5	ハロアルカンの反応(脱離反応、E1 反応)について																														
6	ハロアルカンの反応(脱離反応、E1 反応)について																														
7	ハロアルカンの反応(脱離反応、E2 反応)について																														
8	ハロアルカンの反応(脱離反応、E2 反応)について																														
9	SN2、SN1、E2、E1 反応についてのまとめ																														
10	アルコールの性質と合成																														
11	アルコールの性質と合成																														
12	アルコールの反応について																														
13	アルコールの反応について																														

	14	エーテルの合成と反応について
	15	アルコールおよびエーテルについてのまとめ
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	ボルハルト・ショアー 現代有機化学(上)	
成績評価の方法・基準等	授業中の課題に対する積極的な取り組み状況(5%)、試験(95%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ	薬学教育モデル・コアカリキュラム C4(3)、C5(1)に対応	
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20113500007599	科目番号	35000075
授業科目名	●電気工学概論		
編集担当教員	田口 光雄		
授業担当教員名(科目責任者)	田口 光雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田口 光雄, 篠原 正典		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(工学部以外)		
担当教員Eメールアドレス	田口(mtaguchi@nagasaki-u.ac.jp), 篠原(sinohara@)		
担当教員研究室	田口(工学部2号館3F319), 篠原(工学部2号館4F403)		
担当教員TEL	田口(2561), 篠原(2542)		
担当教員オフィスアワー	別途指示		
授業のねらい	電気工学に共通して必要とされる基礎的な電気・電子工学の知識を身に付ける。		
授業方法(学習指導法)	講義形式で授業を行うほか、適宜、演習を行う。		
授業到達目標	電磁気学、電気回路に関する基礎知識を修得し、電気工学に関する基礎知識を得る。		
授業内容	電気工学分野の理論と技術を概説する科目(概論科目)である。 前半(1~8週): 篠原正典助教(電磁気学分野) 後半(9~15週): 田口光雄教授(電気回路学分野)		
	回	内容	
	1	位置づけ、到達目標、成績評価の方法と基準についてガイダンスを行う。 電荷同士に働くクーロンの法則について学ぶ。	
	2	クーロンの法則を発展させ、電界・ガウスの法則について学ぶ。	
	3	電位について学ぶ。	
	4	コンデンサ容量に関して学習する。	
	5	磁界・磁力線・磁束について学習する。ビオ・サバールの法則を学ぶ。	
	6	アンペールの法則、電磁力、ローレンツ力を学ぶ。	
	7	電磁誘導について学ぶ	
	8	電磁気学のまとめ	
	9	電圧と電流の関係について学ぶ。	
	10	直流回路、抵抗の直列接続・並列接続について学ぶ。	
	11	キルヒホッフの法則、重ね合わせの理について学ぶ。	
	12	電流の発熱作用と電力について学ぶ。	
	13	交流回路とコイル、コンデンサの働きについて学ぶ。	
	14	直列回路の合成インピーダンス、並列回路のアドミタンスについて学ぶ。	
	15	交流回路のキルヒホッフの法則・テブナンの定理について学ぶ。	
16	試験およびその評価		

キーワード	電気磁気学、電気回路学
教科書・教材・参考書	教科書: 西浦宏幸他: 入門工系の電磁気学, 共立出版(篠原担当分) : 高橋 寛(監修): 絵ときでわかる電気回路, オーム社(田口担当分)
成績評価の方法・基準等	成績評価の方法・評価基準: 積極的な授業態度・宿題提出状況も20%、定期テスト80% 定期試験を60%以上の成績を取った者について上記の条件で成績を評価する。60点以上を合格とする。 (再試験): 原則として再試験は行わない。
受講要件(履修条件)	履修上の注意: 全回出席を前提とする
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20113500007598	科目番号	35000075
授業科目名	●電気工学概論		
編集担当教員	山下 敬彦		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 敬彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 敬彦,浜崎 真一		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(工学部以外)		
担当教員Eメールアドレス	別途連絡する		
担当教員研究室	別途連絡する		
担当教員TEL	別途連絡する		
担当教員オフィスマワー	別途指示する		
授業のねらい	電力の発生, 輸送, 消費までの電気エネルギーシステムの概要を理解する。		
授業方法(学習指導法)	講義形式		
授業到達目標	電気エネルギーシステムの概要を理解する。		
授業内容	回	内容	
	1	ガイダンス: 科目の位置づけ, 学習・教育目標等を理解する。	
	2	エネルギー資源とエネルギーシステム: エネルギー資源から消費に至るまでの流れをシステムとして捉え, 総合的に理解する。	
	3	電気エネルギー工学の基礎: 直流・交流回路の素子・電圧・電流等の基礎的な電気回路理論について理解する。	
	4	電気エネルギー工学の基礎: 交流回路の有効電力・無効電力等の理論ならびに電気エネルギーの輸送と貯蔵に関する原理を理解する。	
	5	電力システムと電気機器: 電力システムの構成要素とその役割を理解する。	
	6	パワーエレクトロニクスの基礎: 電力用半導体デバイスの種類と機能, ならびに電力変換回路の構成と原理を理解する。	
	7	パワーエレクトロニクスの応用: 電力系統, 家電製品, 電気自動車, 自然エネルギーを利用したシステム等におけるパワーエレクトロニクスの役割を理解する。	
	8	電動機応用: 電気-機械エネルギー変換を行う電動機の原理・構成・特徴を理解する。	
	9	電気エネルギーシステムの基礎: 電気エネルギーシステムの構成等を理解する。	
	10	従来の発電方式: 火力・水力・原子力等の従来の発電方式の種類, 原理, 特徴等を理解する。	
	11	新発電方式と分散電源: 新発電方式との種類と特徴, 分散電源の種類と特徴および役割等について理解する。	
	12	電気エネルギー輸送システム: 電気エネルギー輸送システムの構成, 送電特性, 安定度と制御等について理解する。	
	13	電気エネルギー消費システム: 照明・電気加熱・電気化学等について理解する。	
14	電気エネルギー消費システム: 空調和について理解する。		

	15	エネルギーと環境ならびにエネルギーの有効利用:エネルギーと地球環境問題, エネルギーの消費と環境負荷因子, エネルギー貯蔵システムの種類と特徴, エネルギーの有効利用等について理解する。
	16	総括
キーワード	エネルギーシステム, 電気エネルギー, 発生, 変換, 輸送, 消費	
教科書・教材・参考書	原雅則:「電気エネルギー工学通論」(オーム社)	
成績評価の方法・基準等	定期試験で評価し, 60点以上(100点満点)を合格とする。	
受講要件(履修条件)	全回出席を前提とする。やむを得ず欠席する(した)場合は特別指導を行うので担当教員に必ず連絡すること。	
本科目の位置づけ	工学関連科目	
学習・教育目標	専門に関連した分野の知識	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20113500008599	科目番号	35000085
授業科目名	●循環型社会工学		
編集担当教員	中村 聖三		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 聖三		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 聖三		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(工学部除く)		
担当教員Eメールアドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室309		
担当教員TEL	095-819-2613		
担当教員オフィスアワー	別途指示する		
授業のねらい	「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経済社会から脱却し、環境への負荷が少ない「循環型社会」を実現させる際の課題とその解決策を社会開発学的観点から講義することによって、循環型社会工学に関する幅広い知識の習得を目指す。		
授業方法(学習指導法)	授業は講義形式で行うものとし、毎回、理解を深めさせるために講義概要とコメントを記したレポートの提出を課す。		
授業到達目標	本授業の到達目標は、循環型社会を達成する必要性を正しく理解し、その基本的事項を説明できる。また、身近な問題に対しても問題意識を持ち、技術者としての判断ができることである。		
授業内容	<p>循環型社会の構築に向けた国内の取組み、都市域ならびに水域の景観・環境等の管理・復元技術について講義する。具体的な内容は、講義内容の項目に記すとおりである。</p> <p>第1回～第5回：循環型社会の構築に向けた国内の取組みの現状を理解し、説明できる。</p> <p>第6回～第7回：都市の景観・環境の管理・復元技術について理解し、説明できる。</p> <p>第8回～第10回：各種廃棄物の現状と処理に関わる問題点を整理し、それらを有効活用する方策について独自の意見を述べる事ができる。</p> <p>第11回～第15回：良好な水循環を実現する上での問題点を正しく認識すると共に、環境モニタリング技術の現状を理解して、自分の意見を示すことができる。</p> <p>第1回 ガイダンス：循環型社会工学とは</p> <p>第2回 環境基本計画と環境影響評価の構成と概要</p> <p>第3回 環境マネジメントシステムの概要とわが国での導入状況</p> <p>第4回 建設材料とそのリサイクル</p> <p>第5回 モニタリング技術に基づく環境評価</p> <p>第6回 住民参加と自立的な地域計画</p> <p>第7回 文化的景観および景観の管理</p> <p>第8回 資源開発地域の環境保全と環境復元</p> <p>第9回 補強土工法による建設発生土の有効利用</p> <p>第10回 廃棄物の有効利用および管理技術</p> <p>第11回 リサイクル材を用いた地盤改良の現状と課題</p> <p>第12回 環境影響評価と水質変化の予測手法</p> <p>第13回 生態系が水環境に及ぼす影響</p> <p>第14回 閉鎖性海域の水質動態観測と水質改善技術について</p> <p>第15回 河川・流域総合管理と水環境の整備</p>		
キーワード	循環型社会／都市環境／水環境／管理・復元技術		
教科書・教材・参考書	教科書：とくになし。関連の資料、プリントを随時配布する。		
	授業への積極的な参加の状況(20%)、毎回課されるレポートの提出状況(80%)に基づき、総合的に成績評価を行う。		

成績評価の方法・基準等	なお、レポート課題で60%(48点)以上をとる必要がある。
受講要件(履修条件)	原則として全回出席を前提とする。ただし、やむをえず欠席する場合は補講・個別指導等を行うので担当教員に連絡すること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	特にないが、循環型社会に関する書籍等を適宜読んで素養をつけておくこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20113500008599	科目番号	35000085
授業科目名	●循環型社会工学		
編集担当教員	中村 聖三		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 聖三		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 聖三		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(工学部除く)		
担当教員Eメールアドレス	shozo@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部1号館3階 教員・ゼミ室309		
担当教員TEL	095-819-2613		
担当教員オフィスアワー	別途指示する		
授業のねらい	「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経済社会から脱却し、環境への負荷が少ない「循環型社会」を実現させる際の課題とその解決策を社会開発工学的観点から講義することによって、循環型社会工学に関する幅広い知識の習得を目指す。		
授業方法(学習指導法)	授業は講義形式で行うものとし、毎回、理解を深めさせるために講義概要とコメントを記したレポートの提出を課す。		
授業到達目標	本授業の到達目標は、循環型社会を達成する必要性を正しく理解し、その基本的事項を説明できる。また、身近な問題に対しても問題意識を持ち、技術者としての判断ができることである。		
授業内容	<p>循環型社会の構築に向けた国内の取組み、都市域ならびに水域の景観・環境等の管理・復元技術について講義する。具体的な内容は、講義内容の項目に記すとおりである。</p> <p>第1回～第5回：循環型社会の構築に向けた国内の取組みの現状を理解し、説明できる。</p> <p>第6回～第7回：都市の景観・環境の管理・復元技術について理解し、説明できる。</p> <p>第8回～第10回：各種廃棄物の現状と処理に関わる問題点を整理し、それらを有効活用する方策について独自の意見を述べる事ができる。</p> <p>第11回～第15回：良好な水循環を実現する上での問題点を正しく認識すると共に、環境モニタリング技術の現状を理解して、自分の意見を示すことができる。</p> <p>第1回 ガイダンス：循環型社会工学とは</p> <p>第2回 環境基本計画と環境影響評価の構成と概要</p> <p>第3回 環境マネジメントシステムの概要とわが国での導入状況</p> <p>第4回 建設材料とそのリサイクル</p> <p>第5回 モニタリング技術に基づく環境評価</p> <p>第6回 住民参加と自立的な地域計画</p> <p>第7回 文化的景観および景観の管理</p> <p>第8回 資源開発地域の環境保全と環境復元</p> <p>第9回 補強土工法による建設発生土の有効利用</p> <p>第10回 廃棄物の有効利用および管理技術</p> <p>第11回 リサイクル材を用いた地盤改良の現状と課題</p> <p>第12回 環境影響評価と水質変化の予測手法</p> <p>第13回 生態系が水環境に及ぼす影響</p> <p>第14回 閉鎖性海域の水質動態観測と水質改善技術について</p> <p>第15回 河川・流域総合管理と水環境の整備</p>		
キーワード	循環型社会／都市環境／水環境／管理・復元技術		
教科書・教材・参考書	教科書：とくになし。関連の資料、プリントを随時配布する。		
	授業への積極的な参加の状況(20%)、毎回課されるレポートの提出状況(80%)に基づき、総合的に成績評価を行う。		

成績評価の方法・基準等	なお、レポート課題で60%(48点)以上をとる必要がある。
受講要件(履修条件)	原則として全回出席を前提とする。ただし、やむをえず欠席する場合は補講・個別指導等を行うので担当教員に連絡すること。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	特にないが、循環型社会に関する書籍等を適宜読んで素養をつけておくこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20113500009099	科目番号	35000090
授業科目名	●工業材料概論		
編集担当教員	大貝 猛		
授業担当教員名(科目責任者)	大貝 猛		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大貝 猛		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(工学部除く)		
担当教員Eメールアドレス	ohgai@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	総合教育研究棟6階617号室		
担当教員TEL	095-819-2638		
担当教員オフィスアワー	木曜5校時		
授業のねらい	現在の科学技術の進展を可能にしている工業材料全般の構造、性質、製造、用途について学ぶ。		
授業方法(学習指導法)	講義形式の授業を行う。また、小テストやレポート作成を行う。		
授業到達目標	工業材料の基本的事項を科学的な立場から説明し、工業材料に関する諸問題について意見を述べることができる。		
授業内容	回	内容	
	1	工業材料概論(現代社会と工業材料, 工業材料の分類について説明できる。)	
	2	化学結合と結晶構造(金属結合, イオン結合, 共有結合等について説明できる。)	
	3	材料の機械的性質, 応力-歪曲線, 弾性係数, 硬さ, ねばさ, 疲労, クリープ(機械的性質とその評価法を説明できる。)	
	4	塑性変形と転位, 加工硬化, 回復・再結晶, すべり系, 転位, 強化方法(変形のメカニズムを理解し, 説明できる。)	
	5	状態図と組織, 相変態, 共晶反応, 包晶反応, 偏晶反応(材料の組織を科学的に解釈できる。)	
	6	鉄鋼材料Ⅰ: 同素変態, Fe-C系状態図(鉄鋼材料の基本を理解し, 説明できる。)	
	7	鉄鋼材料Ⅱ: マルテンサイト, 熱処理(鉄鋼材料の熱処理を理解し, 説明できる。)	
	8	鉄鋼材料Ⅲ: ステンレス(耐食性合金の基本を理解し, 説明できる。)	
	9	鉄鋼材料Ⅳ: 鋳鉄(鋳造合金の基本を理解し, 説明できる。)	
	10	非鉄金属材料Ⅰ: 銅および銅合金(銅および銅合金の基本を理解し, 説明できる。)	
	11	非鉄金属材料Ⅱ: アルミニウム, マグネシウム(軽金属材料の基本を理解し, 説明できる。)	
	12	非鉄金属材料Ⅲ: 亜鉛, チタンおよびその合金等(非鉄金属材料の基本を理解し, 説明できる。)	
	13	セラミックス材料(セラミックスの構造と物性について説明できる。)	
	14	高分子材料(高分子の構造と物性について説明できる。)	
	15	総合演習(工業材料に関する問題を解き, 内容を理解する。)	
16			
キーワード	平衡状態図、結晶成長、材料組織、鉄鋼材料、銅合金、アルミニウム合金、亜鉛合金		

教科書・教材・参考書	教科書:「機械材料」打越二彌著(東京電機大学出版局) 参考書:「新しい工業材料」佐多・田中・西岡著(森北出版)
成績評価の方法・基準等	成績の評価方法・評価基準:小テスト20点、レポート20点、授業への積極的参加20点、考査40点。考査が24点(60%)以上でかつ合計点が60点(60%)以上を合格とする。
受講要件(履修条件)	全回出席を前提とする。ただし、やむを得ず欠席する場合は特別指導を行うので担当教官に連絡すること。
本科目の位置づけ	本科目は、他学科の専門分野の内容を修得する概論科目として位置付けられる。
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	

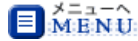


Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System



メニューへ



ログアウト



シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

学期	前期	曜日・校時	火2																																
開講期間																																			
必修選択	選択	単位数	2.0																																
時間割コード	20114005014199	科目番号	40050141																																
授業科目名	●都市設計学																																		
編集担当教員	杉山 和一																																		
授業担当教員名(科目責任者)	杉山 和一																																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	杉山 和一																																		
科目分類	開放科目																																		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目																																
教室																																			
対象学生(クラス等)	全学部(環境科学部除く)																																		
担当教員Eメールアドレス	sugiyama@nagasaki-u.ac.jp																																		
担当教員研究室	環境科学部319																																		
担当教員TEL	819-2752																																		
担当教員オフィスアワー	月曜日 13:00~16:00																																		
授業のねらい	都市計画、交通計画、ユニバーサルデザイン、景観に関する基礎知識を身につける。																																		
授業方法(学習指導法)	毎回提示する個別のテーマについて具体的な事例を図表や写真等を用いて提示し、できるだけ分かりやすく説明する。																																		
授業到達目標	都市計画、交通計画、景観に関する基礎的な概念を説明することができる。ユニバーサルデザインに関する意見を表現することができる。																																		
授業内容	<p>概要：本講義では、まず我が国における都市の現状や問題点について述べる。また、都市計画制度について詳述し、その問題点や課題を指摘するとともに、都市問題を分析・評価するための手法を紹介する。さらに、都市景観の整備を目的とする様々な都市設計手法について述べる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>現代の人間居住と都市</td></tr> <tr><td>2</td><td>都市計画マスタープラン</td></tr> <tr><td>3</td><td>土地利用計画</td></tr> <tr><td>4</td><td>公園緑地の計画</td></tr> <tr><td>5</td><td>建築行為・開発行為の制限</td></tr> <tr><td>6</td><td>都市交通(1)</td></tr> <tr><td>7</td><td>都市交通(2)</td></tr> <tr><td>8</td><td>ユニバーサルデザインの概念</td></tr> <tr><td>9</td><td>都市のユニバーサルデザイン</td></tr> <tr><td>10</td><td>景観論</td></tr> <tr><td>11</td><td>景観分析の基礎知識(1)</td></tr> <tr><td>12</td><td>景観分析の基礎知識(2)</td></tr> <tr><td>13</td><td>景観の工学的把握(1)</td></tr> <tr><td>14</td><td>景観の工学的把握(2)</td></tr> <tr><td>15</td><td>景観と音景観</td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	現代の人間居住と都市	2	都市計画マスタープラン	3	土地利用計画	4	公園緑地の計画	5	建築行為・開発行為の制限	6	都市交通(1)	7	都市交通(2)	8	ユニバーサルデザインの概念	9	都市のユニバーサルデザイン	10	景観論	11	景観分析の基礎知識(1)	12	景観分析の基礎知識(2)	13	景観の工学的把握(1)	14	景観の工学的把握(2)	15	景観と音景観
回	内容																																		
1	現代の人間居住と都市																																		
2	都市計画マスタープラン																																		
3	土地利用計画																																		
4	公園緑地の計画																																		
5	建築行為・開発行為の制限																																		
6	都市交通(1)																																		
7	都市交通(2)																																		
8	ユニバーサルデザインの概念																																		
9	都市のユニバーサルデザイン																																		
10	景観論																																		
11	景観分析の基礎知識(1)																																		
12	景観分析の基礎知識(2)																																		
13	景観の工学的把握(1)																																		
14	景観の工学的把握(2)																																		
15	景観と音景観																																		

	16 試験及び指導
キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書:教科書は使わず、授業計画に沿ったプリント資料を適宜配布する。 参考書: 都市交通研究会、これからの都市交通、山海堂 構木 武、ユニバーサルデザインのまちづくり、森北出版 篠原 修、土木景観工学、技報堂出版
成績評価の方法・基準等	定期試験(100%)
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	関係する専門科目, 資格等: 都市環境学など
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114004027099	科目番号	40040270
授業科目名	●環境史		
編集担当教員	正本 忍		
授業担当教員名(科目責任者)	正本 忍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	正本 忍		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(環境科学部除く)		
担当教員Eメールアドレス	masamoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部本館4階 環403		
担当教員TEL	819-2742		
担当教員オフィスアワー	金曜日 14:00~15:00		
授業のねらい	ねらいと方法:生物にとっての環境とは何よりもまず自然環境を意味する。しかし、文化的・社会的動物である人類にとっての環境とは単に自然環境のみならず、社会環境、文化環境も視野に入れて考えなければならない。現在、我々が直面している「環境」問題は自然環境の破壊だけではない。文化・社会環境に関わる諸問題もまた人間にとって切実な問題である。本講義では、このことを踏まえた上で、「環境」を自然環境に限定せず、文化環境、社会環境も含めたより広い概念として捉え、それらの諸環境を過去の人間の営みとの関連で講義する。		
授業方法(学習指導法)	ねらいと方法:生物にとっての環境とは何よりもまず自然環境を意味する。しかし、文化的・社会的動物である人類にとっての環境とは単に自然環境のみならず、社会環境、文化環境も視野に入れて考えなければならない。現在、我々が直面している「環境」問題は自然環境の破壊だけではない。文化・社会環境に関わる諸問題もまた人間にとって切実な問題である。本講義では、このことを踏まえた上で、「環境」を自然環境に限定せず、文化環境、社会環境も含めたより広い概念として捉え、それらの諸環境を過去の人間の営みとの関連で講義する。		
授業到達目標	上述のような広義の「環境」を認識できる視野の広さ、思考の柔軟性を涵養する。また、過去の「環境」に関する知識を現在と未来の人と地球の「環境」対策に活かせるような学生を育成する。		
授業内容	1回目 環境史の射程 2回目 イースター島の教訓 3回目 古代文明の崩壊 4回目 ヨーロッパ環境思想の展開 —キリスト教世界の自然観(1)— 5回目 キリスト教世界における動植物のイメージ —キリスト教世界の自然観(2)— 6回目 前近代ヨーロッパにおける動物の虐待 7回目 動物裁判 8回目 人間の領域の拡大 —人と森のヨーロッパ史— 9回目 ヨーロッパの拡大と環境破壊 10回目 都市の台頭と環境問題 11回目 近世パリの生活環境 12回目 工業化の進展と環境破壊 13回目 映画「ソイレント・グリーン」(1973年・アメリカ)に見る「未来」の環境問題 14回目 「ソイレント・グリーン」解説 15回目 総括 16回目 定期試験		
キーワード	環境、歴史、フランス、ヨーロッパ、前近代		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。主要な参考文献は、クライヴ・ボンティング『緑の世界史(上)(下)』石弘之・京都大学環境史研究会訳、朝日新聞社、1994年。その他の参考文献は、講義中に紹介する。		
	定期試験(100%)。定期試験は論述問題を含む。		

成績評価の方法・基準等	講義への出欠は、原則的に、受験資格の有無を確認するためだけに用いる。
受講要件(履修条件)	「環境」を自然環境に限定せず、文化環境、社会環境も含めたより広い概念として捉えられる学生が望ましい。
本科目の位置づけ	関係する専門科目:文化環境論、地域環境研究(フランス語圏)、環境社会学、環境民俗学、環境思想史
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114004035199	科目番号	40040351
授業科目名	●地域環境研究(フランス語圏)		
編集担当教員	正本 忍		
授業担当教員名(科目責任者)	正本 忍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	正本 忍		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学生(環境科学部を除く)		
担当教員Eメールアドレス	masamoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部本館4階 環403		
担当教員TEL	819-2742		
担当教員オフィスアワー	金曜日 14:00~15:00		
授業のねらい	①フランス語文献を読む力をつける。②フランスの環境問題に関する幅広い知識と様々なアプローチの視点を得る。③講義中の議論を通じて、思考力、考えをまとめる能力を養成する。		
授業方法(学習指導法)	仏語文献購読。読み進め方などは受講生の語学力を考慮して決める。		
授業到達目標	仏語文献に慣れること。少なくとも、仏和辞典を片手に環境関係の新聞記事の内容を大まかに理解できるようになること。		
授業内容	<p>環境問題あるいは環境史に関する仏語文献の購読。記事の文体に定評がある全国紙『ル・モンド Le Monde』からフランスの環境に関する最新的话题を読んでいく予定。</p> <p>1回目 ガイダンス 2回目 仏語文献購読(のための準備作業:仏語文法の復習) 3回目 仏語文献購読(のための準備作業:仏語文法の復習) 4回目 仏語文献購読(のための準備作業:仏語文法の復習) 5回目 仏語文献購読(のための準備作業:仏語文法の復習) 6回目 仏語文献購読(のための準備作業:仏語文法の復習) 7回目 仏語文献購読(のための準備作業:仏語文法の復習) 8回目 仏語文献購読 9回目 仏語文献購読 10回目 仏語文献購読 11回目 仏語文献購読 12回目 仏語文献購読 13回目 仏語文献購読 14回目 仏語文献購読 15回目 仏語文献購読 16回目 定期試験</p>		
キーワード	環境、歴史、フランス、ヨーロッパ、前近代		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。参考文献は講義中に紹介する。		
成績評価の方法・基準等	定期考査(50%)、小テスト(10回程度)(40%)、受講態度(出席を含む)(10%)		
受講要件(履修条件)	1、2年次に初習学国語としてフランス語を受講していた者、あるいは同等の仏語力を有する者。また、「環境」を自然環境に限定せず、文化環境、社会環境も含めたより広い概念として捉えられる学生が望ましい。		
本科目の位置づけ	関係する専門科目:環境史、環境社会学、環境民俗学、環境思想史		

学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

LiveCampus

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114501003099	科目番号	45010030
授業科目名	●資源管理学概論		
編集担当教員	天野 雅男		
授業担当教員名(科目責任者)	天野 雅男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	天野 雅男		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部を除く)		
担当教員Eメールアドレス	天野雅男 (m-amano@)		
担当教員研究室	水産学部本館3階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	平日午後		
授業のねらい			
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	水産資源の管理に必要な海洋動物生態の基礎を理解する。水産資源の管理、保全についての基礎的な認識、考え方を養う。日本語による論理的記述力を養う。		
授業内容	<p>【概要】 海洋に生きる生物を持続的に利用しようとする方策が資源管理である。海洋生物は陸上生物とは大きく異なる生態を持つことをまず理解する。管理に必要な基礎的情報、個体群の構造や動態について、その調査方法とともに概説する。その上で、これまでに開発された管理方策を説明し、その問題点について述べる。最後に新しい管理方策の考え方を説明するとともに、今後解決すべき問題を提起する。</p> <p>【計画・内容】 第1回:水産資源管理とは 第2、3回:海洋生態系の特徴 第4回:個体群構造 第5回:生活史情報 第6、7回:資源量推定法 第8:乱獲と資源状態の把握法 第9回:理想的個体群の動態 第10回:MSY理論 第11回:その他の基礎的管理理論 第12回:MSY理論の問題点と変動する資源の管理方策 第13回:新しい管理方法 第14回:TAC制度とその問題点 第15回:漁獲枠配分方法 第16回:評価と指導</p>		
キーワード	海洋動物生態、水産資源管理、個体群構造と動態、捕鯨		
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。講義はスライド資料を中心に行う。参考書として以下を挙げる。 「魚をとりながら増やす」松宮義晴著 ペルソブックス 成山堂 「水産資源管理学」北原武 編著 成山堂 「漁業資源」川崎健 著 成山堂 「環境生態学序説」松田裕之著 共立出版		

成績評価の方法・基準等	期末試験(100%) 海洋生態系の特徴に基づく資源管理の理論と問題点について理解ができていれば合格とする。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	メールアドレスは@のあとに nagasaki-u.ac.jpを付けて送信のこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



長崎大学 学務情報システム

NU-Web System

メニューへ
MENUログアウト
LOGOUT

シラバス関連 > シラバス参照 > シラバス検索 > シラバス一覧 > シラバス参照

[Login User](#)

『 全学教育 』

タイムアウトまでおよそ1800秒です。

印刷



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



戻る

学期	前期	曜日・校時	金1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114501004099	科目番号	45010040
授業科目名	●海の生物 I		
編集担当教員	橋本 惇		
授業担当教員名(科目責任者)	橋本 惇		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋本 惇,金井 欣也		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部を除く)		
担当教員Eメールアドレス	橋本 惇 (junh@) 金井欣也 (kanai@)		
担当教員研究室	橋本 (水産学部A棟2階東寄り) 金井 (水産学部A棟2階中央)		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	橋本: 平日 13:00~ 17:00 金井: 平日 09:00~ 18:00		
授業のねらい			
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	海洋生物についての基礎知識を習得し、水産学の専門分野の学習に応用できる。 海洋環境についての基礎知識を習得する。 レポート・試験などを日本語で理論的に記述できるようになる。		
授業内容	<p>【概要】 海洋生物とその生息環境および環境適応について概説する。そして、海洋生物の生息環境が失われつつある現実を知ると共にそれらの保護についても考察する。 本講義により、海洋生物や海洋環境に関する基礎知識を深める。</p> <p>【計画・内容】 第 1回: 大学教育入門 第 2回: 海洋生物の生活の場としての海洋と海底 第 3回: 海洋の物理・化学的特性 第 4回: 潮汐と潮間帯の生物 第 5回: 海水中の栄養塩と海水の大循環 第 6回: 海洋深層水の特性とその利用 第 7回: ジャイアント・ケルプ 第 8回: 深海の生物 第 9回: 代表的な海洋動物 第10回: 海洋環境と生物(呼吸、血液循環)</p>		

	<p>第11回: 海洋環境と生物(血球、排泄) 第12回: 環境適応(浸透圧調節、温度適応、体温調節) 第13回: ウナギ・ブリの回遊 第14回: 海洋動物の発育 第15回: 海洋動物の増養殖 第16回: 期末試験および指導</p>
キーワード	海洋と海底・生息環境・海洋生物の種類・生理・環境適応
教科書・教材・参考書	<p>教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。講義は基本的にPowerPointによる。以下の本を副読本として推奨する。</p> <p>堀越増興・長田 豊・佐藤任弘(1987)日本列島をめぐる海 岩波書店 中島敏光(2002)海洋深層水の利用 緑書房 椎野秀雄(1969)水産無脊椎動物学 培風館 時岡 隆・原田英司・西村三郎(1974)海の生態学 築地書館 岩井 保(2005)魚学入門 恒星社厚生閣 森沢正昭・合田勝美・平野哲也(1990)回遊魚の生物学 学会出版センター</p>
成績評価の方法・基準等	<p>橋本: 目的達成度をレポート2回(20%)、期末試験(80%)で評価し、総合評価が60%以上を合格とする。 金井: 期末試験で評価する。2/3以上出席し、海洋動物の基本特性が理解できていれば合格(60%)とする。</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	<p>前回の授業の復習を行うと共に配布したプリントや副読本をもとに予習することが望ましい。 メールアドレスは@のあとに nagasaki-u.ac.jpを付けて送信のこと。</p>





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114501006099	科目番号	45010060
授業科目名	●生物化学概論		
編集担当教員	小田 達也		
授業担当教員名(科目責任者)	小田 達也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小田 達也,山口 健一,原 研治,長富 潔		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部除く)		
担当教員Eメールアドレス	小田 達也 (t-oda@) 山口 健一 (kenichi@) 原 研治 (hara@) 長富 潔 (osatomi@)		
担当教員研究室	小田:新館4階 山口:新館4階 原:新館3階 長富:新館3階 ※全て水産学部内		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	火曜午後3時以降		
授業のねらい			
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生物を構成する細胞、細胞小器官、化学物質の基礎的な構造・役割・特性を理解する。 ・生命現象を生化学的に捉えるための基礎を習得する。 ・生物の基本構成物質である脂質・糖質・アミノ酸・核酸の基礎的な事項を修得し、それらの物質が生命にとって非常に重要な物質であることを理解する。 ・これらの教育を通して与えられた課題から自主的勉学意欲を育成する。 		
授業内容	<p>【概要】 まず、化学の基礎および細胞の構造・細胞内小器官(オルガネラ)の特異な役割を理解させる。ついで、生体構成成分として不可欠な脂肪・脂肪酸についての基礎的な事項を理解させる。次に、生体のエネルギー源・構成成分として重要な糖質、機能的に重要な成分であるタンパク質の知識を授けるためアミノ酸の特性を理解させた後、タンパク質の一般的性質・生体での役割・酵素の概念を理解させる。さらに、核酸・遺伝子の構造と機能について理解させる。本講義は、生物化学Iと関連が深い。</p> <p>【計画・内容】 第1回:大学教育入門 第2回:化学の基礎、生命と水、有機物質の基本的化学結合(小田) 第3回:細胞の構造と細胞を構成するオルガネラの役割(小田) 第4・5回:脂肪酸の化学・構造、脂質の役割(小田) 第6・7・8回:糖質の化学(単糖の構造と性質、二糖、オリゴ糖、多糖)(山口) 第9・10・11回:タンパク質構成アミノ酸の特性、タンパク質の一般的性質、タンパク質の構造・機能、タンパク質の役割(生体触媒、構築材料、情報伝達、生体防御、運搬体等)(原)</p>		

	第12回:タンパク質としての酵素(酵素反応の特性)(原) 第13・14・15回: 核酸の基礎化学、遺伝子の構造(長富) 第16回: 期末試験および指導
キーワード	細胞の構造・脂質・糖質・アミノ酸・タンパク質・酵素・核酸
教科書・教材・参考書	教科書:コア講義 生化学 田村隆明著(裳華房)本体2,500円 参考書:レーニンジャーの新生化学 [上・下] 第4版(廣川書店) レーニンジャーの新生化学は図書館で利用可能です。その他、生物化学の参考書は多くの出版社から発行されています。何か一冊は購入して講義内容のさらなる理解と今後の関連分野の勉学に役立てることを勧めます。
成績評価の方法・基準等	期末試験で評価する。2/3以上出席し、細胞の構成、生体分子の構造と機能の概要を生化学的に説明できれば合格(60点)とする。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金3																
開講期間																			
必修選択	選択	単位数	2.0																
時間割コード	20114501008099	科目番号	45010080																
授業科目名	●海洋学概論																		
編集担当教員	和田 実																		
授業担当教員名(科目責任者)	和田 実																		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 実, 武田 重信																		
科目分類	開放科目																		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目																
教室																			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部を除く)																		
担当教員Eメールアドレス	miwada@nagasaki-u.ac.jp																		
担当教員研究室	水産学部本館3階																		
担当教員TEL																			
担当教員オフィスアワー	授業前後が望ましい, 随時受け付ける, メールでも可																		
授業のねらい																			
授業方法(学習指導法)																			
授業到達目標	<input type="checkbox"/> 水産生物資源の生息場所である海洋について、物理学、化学、生物学、地学など基礎科学の視点をふまえて学ぶ。(目標D) <input type="checkbox"/> 日本語による論理的な記述力や継続的に学習できる能力を身につける。(目標G, I)																		
授業内容	<p>概ね以下の項目について授業を行うが、理解度に応じて一部変更することがある。</p> <table border="0"> <tr> <td>第1回:地球の誕生</td> <td>第9回:海水の物性-1</td> </tr> <tr> <td>第2回:海洋の成立</td> <td>第10回:海水の物性-2</td> </tr> <tr> <td>第3回:海洋生物の多様性</td> <td>第11回:海流-1</td> </tr> <tr> <td>第4回:海洋生物の進化</td> <td>第12回:海流-2</td> </tr> <tr> <td>第5回:海洋生態系の構造</td> <td>第13回:海水の化学組成と分布-1</td> </tr> <tr> <td>第6回:海洋生態系の機能</td> <td>第14回:海水の化学組成と分布-2</td> </tr> <tr> <td>第7回:海洋の物質循環</td> <td>第15回:波と潮汐</td> </tr> <tr> <td>第8回:前半のまとめ</td> <td>第16回:期末試験</td> </tr> </table> <p>前半(1~8回)は和田が、後半(9~16回)は武田が担当する予定。</p>			第1回:地球の誕生	第9回:海水の物性-1	第2回:海洋の成立	第10回:海水の物性-2	第3回:海洋生物の多様性	第11回:海流-1	第4回:海洋生物の進化	第12回:海流-2	第5回:海洋生態系の構造	第13回:海水の化学組成と分布-1	第6回:海洋生態系の機能	第14回:海水の化学組成と分布-2	第7回:海洋の物質循環	第15回:波と潮汐	第8回:前半のまとめ	第16回:期末試験
第1回:地球の誕生	第9回:海水の物性-1																		
第2回:海洋の成立	第10回:海水の物性-2																		
第3回:海洋生物の多様性	第11回:海流-1																		
第4回:海洋生物の進化	第12回:海流-2																		
第5回:海洋生態系の構造	第13回:海水の化学組成と分布-1																		
第6回:海洋生態系の機能	第14回:海水の化学組成と分布-2																		
第7回:海洋の物質循環	第15回:波と潮汐																		
第8回:前半のまとめ	第16回:期末試験																		
キーワード	海洋物理、海洋化学、海洋生物、海洋地質																		
教科書・教材・参考書	<p>参考書(図書館所蔵): 海洋のしくみ(日本実業出版社)、海の科学:海洋学入門(恒星社厚生閣)、海洋大辞典(東京堂出版)、 生物海洋学入門(講談社)、海と環境:海が変わると地球が変わる(講談社)、海と地球環境:海洋学の最前線(東京大学出版会)、海知られざる世界(NHK)など</p>																		
成績評価の方法・基準等	試験100% 海洋学について概略を理解し、説明できれば合格(60点)とする。																		
受講要件(履修条件)																			
本科目の位置づけ																			
学習・教育目標	D(◎), G(◎), I(○)																		
備考(URL)																			
	聞きなれない用語が多く出てくるので戸惑うかもしれないが、分からないことを分からない状態のままでは終わらせず、参																		

備考(準備学習等)

考書で調べたり、質問したりして自主的に情報を集めること。
メールアドレスは@のあとに
nagasaki-u.ac.jpを付けて送信のこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114501007099	科目番号	45010070
授業科目名	●食糧科学概論		
編集担当教員	荒川 修		
授業担当教員名(科目責任者)	荒川 修		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	荒川 修, 橘 勝康, 市川 寿, 濱田 友貴, 谷山 茂人		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部を除く)		
担当教員Eメールアドレス	荒川 修 (arakawa@)		
担当教員研究室	橘・谷山:水産学部D棟 3階 荒川:水産学部D棟 1階 市川・濱田:水産学部C棟2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	月、木の 午後4時以降		
授業のねらい			
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	<p>食糧とは、ヒトが生命を維持し、健康で楽しい生活をするために安心・安全に摂取するものであることを理解し、説明できるようになる。</p> <p>食糧に関わる基本事項、すなわち食品の基本的特性、食品成分の働き、食品添加物、魚介類の毒、食品を構成する成分の貯蔵中における変化、植物性食品、動物性食品、加工食品の特徴について理解できるようになる。</p> <p>(メールアドレスの続き)</p> <p>橘 勝康 (orange@) 市川 寿 (ichinon@) 濱田友貴 (yuhamada@) 谷山茂人 (tshigeto@)</p>		
授業内容	<p>【概要】</p> <p>食品の基本的特性(水分・タンパク質・脂質・糖質・無機質・ビタミン等)と働き、色・味・香りに関する成分、食品添加物、魚介類の毒、加工や貯蔵中における成分等の変化、植物性食品、動物性食品、加工食品の特徴と加工方法について述べる。</p> <p>本講義では、食糧の基礎的事項を解説し、水産学における食糧のとらえ方と食糧問題の考え方及びその意義を概説する。</p> <p>【計画・内容】</p> <p>第1回：食品の基本特性：食の安全安心と倫理について(橘)</p> <p>第2回：食品の基本特性：食品とは、日本の食糧事情(橘)</p> <p>第3回：食品の成分特性：水分(水の性質、食品の保存性と水分活性)、タンパク質(アミノ酸、ペプチド結合と立体構造)(濱田)</p> <p>第4回：食品の成分特性：無機質・ビタミン等(橘)</p> <p>第5回：食品の成分特性：糖質(糖質の分類、単糖、二糖、多糖)、脂質(脂質の分類、脂肪酸)(谷山)</p> <p>第6回：食品成分の変化：油脂の酸化(反応機序と抑制)(谷山)</p> <p>第7回：食品成分の変化：食品の褐変(非酵素的褐変、酵素的褐変)(谷山)</p> <p>第8回：食品の安全性：食品添加物：色・味・香りに関する成分、食品添加物の役割と働き(荒川)</p>		

	<p>第9回：食品の安全性：魚介類の毒（荒川） 第10回：植物性食品：植物性食品の種類と特徴（荒川） 第11回：動物性食品：水産食品の種類と特徴（濱田） 第12回：動物性食品：畜産食品の種類と特徴（濱田） 第13回：加工食品：農産加工食品・分類と製造法（市川） 第14回：加工食品：水産加工食品・分類と製造法（市川） 第15回：加工食品：新しい加工食品（市川） 第16回：期末考査および指導</p>
キーワード	水分・タンパク質・脂質・糖質・無機質・ビタミン・植物性食品・動物性食品・加工食品
教科書・教材・参考書	三訂食品学概論（金田尚志、五十嵐修編、光生館）、食品化学（坂本 清他、朝倉書店）、食品化学概説（神立 誠、監、光生館）、水産食品学（須山三千三、恒星社厚生閣）、食品化学総論（岩田久敬、養賢堂）、食品の加工と貯蔵（桜井芳人、藤巻正生、光生館）、食品学各論（菅原龍幸他、建帛社）、フグはなぜ毒をもつのか（野口玉雄、NHKブックス）
成績評価の方法・基準等	
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	上欄の参考書、特に「三訂食品学概論」を事前によく読んでおくこと。 メールアドレスは@のあとに nagasaki-u.ac.jpを付けて送信のこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114501002099	科目番号	45010020
授業科目名	●水産と船		
編集担当教員	合田 政次		
授業担当教員名(科目責任者)	合田 政次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	合田 政次, 山口 恭弘, 高山 久明, 松下 吉樹		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部を除く)		
担当教員Eメールアドレス	山口(ayutrap@) 松下(yoshiki@) 合田(goda@) 高山(kyumei@)		
担当教員研究室	水産学部本館3階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	講義の前後		
授業のねらい			
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	世界の漁業の現状とそこで使用されている漁業技術及びそれらの問題点の概要を学び、将来を展望する能力を養う。また、船舶の航法、航海計器について学び概要を説明できるようになる。また、各種漁業調査船や本県漁業をはじめ世界の漁業とそれを取り巻く社会的並びに自然的環境について学び、水産資源の持続的開発・生産について技術的側面から考える能力を養うことができる。また、レポート作成を課題としている。		
授業内容	<p>【概要】 本講義は古くから水産学の大きな柱の一つであると同時に生産の現場に密着した実学である。ここでは各専門分野の教員が、以下の計画・内容に従って講義するが、その概要は以下である。</p> <p>1. 世界の食糧生産における漁業の役割と生産方法について、海とそこに棲む生物は誰のものか、誰が管理するか、漁業を取り巻く問題点と解決のための技術について。</p> <p>2. 船舶の航海、航海計器及び航海法規の概要、漁船の種類と概要及びその運用法の実際について</p> <p>【計画・内容】 1. 大学教育入門 2. 本講義の位置づけ・漁撈活動、責任ある漁業、3. 責任ある漁業、国際的な野生生物保護と漁業、4. 漁獲技術の分類体系、5. 漁場成立要因、6. 長崎県漁業の特徴(山口恭弘) 7. 日本の漁業と世界の漁業、8. 漁業の管理手法、9. 問題解決に向けた技術的アプローチ(松下吉樹) 10. 各種航法と海図、11. 航海計器とその変遷、12. 海事法規の概要(合田政次) 13. 船とは、船の種類と発達、漁船の定義、漁船の運用法(1)、14. 海洋調査船、漁業調査船、漁船の運用法(2)、15. 日本及び世界の漁船船型及び漁業の実際と要素技術(高山久明) なお、上記計画・内容については、授業進度によって一部変更される場合があります。</p>		
キーワード	漁具・漁法、漁業管理、漁船漁業・漁労機器、航海学・航海計器、漁船・調査船・運用学		
教科書・教材・参考書	1. 大学教育入門 2. 本講義の位置づけ・漁撈活動、責任ある漁業、3. 責任ある漁業、国際的な野生生物保護と漁業、4. 漁獲技術の分類体系、5. 漁場成立要因、6. 長崎県漁業の特徴(山口恭弘) 7. 日本の漁業と世界の漁業、8. 漁業の管理手法、9. 問題解決に向けた技術的アプローチ(松下吉樹) 10. 各種航法と海図、11. 航海計器とその変遷、12. 海事法規の概要(合田政次) 13. 船とは、船の種類と発達、漁船の定義、漁船の運用法(1)、14. 海洋調査船、漁業調査船、漁船の運用法(2)、15. 日本及び世界の漁船船型及び漁業の実際と要素技術(高山久明) なお、上記計画・内容については、授業進度によって一部変更される場合があります。		

成績評価の方法・基準等	授業への参加状況(30%)及びレポート(70%)で評価する。世界の漁業の現状と技術、資源の開発・生産及び船舶の航海、運用法の概要を説明できれば合格(60点)とする。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	漁業や漁船などについて高校までの学習では体系的に習熟していないことが多いだろうが、本大学のある長崎市周辺に点在する漁村を一度は訪れ漁具や漁船、航海機器などについて見聞を広めておくことが望ましい。なお、本講義受講者の一部希望者を対象として実際の漁業体験に同行するのであらかじめ希望者は山口までメールにて連絡するとよいだろう。メールアドレスは@のあとにnagasaki-u.ac.jpを付けて送信のこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.



シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金1
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114501005099	科目番号	45010050
授業科目名	●海の生物Ⅱ		
編集担当教員	山口 敦子		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 敦子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 敦子,SATUITO CYRIL GLENN		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部を除く)		
担当教員Eメールアドレス	山口 敦子 y-atsuko@ サイト シル グレン satuito@		
担当教員研究室	水産学部本館2階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	金曜日 I 講時終了後 (質問カードも配布する)		
授業のねらい			
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	海洋生物資源(海の動物および植物)の生物学的諸特性を理解し、生物資源の合理的・永続的な生産と利用に関する基礎的な事項について説明できる。		
授業内容	<p>【概要】 海洋生物資源の種類と特徴を概説し、資源の生物学的特性について、その調査方法も含めて説明する。また、主要な資源生物を紹介し、資源を合理的・永続的に利用していくための考え方を学ぶ。</p> <p>【計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 海洋生物の特徴 2. 個体群の変動のしくみ 3. 海洋生物生産のしくみ、特に再生産について 4. 海洋生物の生活様式 I 5. 海洋生物の生活様式 II 6. 海洋生物資源と生産量 7. 海洋生物の利用 8. 海洋生物の保全、人間活動と海洋生物との関わり 9. 海洋植物の種類 10. 海洋植物の成育環境 11. 海洋植物の生理 12. 海藻の利用 13. 海藻資源と生産量 14. 海藻養殖の概要 (1) 15. 海藻養殖の概要 (2) 16. 期末試験および指導 <p>1～8は山口敦子、9～15はサイトC.グレンがそれぞれ担当。</p>		

キーワード	海洋生物資源・生物資源の特徴
教科書・教材・参考書	<p>主な参考書</p> <p>1) 水産資源学: 能勢幸雄・石井丈夫・清水誠著、東京大学出版会</p> <p>2) 魚をとりながら増やす: 松宮義晴著、成山堂書店</p> <p>3) フィールドベスト図鑑「日本の海藻」千原光雄監修、学習研究社、定価1,900円</p> <p>4) 海藻のはなし: 新崎盛敏・新崎輝子著、東海大学出版会、定価1,500円</p> <p>5) 藻類の多様性と系統: 岩槻・馬渡監修、千原光雄編集、裳華房、定価4,700円</p> <p>6) 海藻資源養殖学: 徳田 廣 他著、緑書房、定価5,500円</p> <p>上記の参考書は図書館で利用でき、また教官研究室での閲覧も可能である。</p>
成績評価の方法・基準等	<p>・期末試験(100%)</p> <p>・生物資源の合理的・持続的な生産と利用に関する基礎的な事項について理解できていれば合格とする。</p>
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	<p>メールアドレスは@のあとに nagasaki-u.ac.jpを付けて送信のこと。</p>





シラバス参照

タイトル「**2011年度シラバス**」、開講所属「**全学教育-全学教育_開放科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金2
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	20114501009099	科目番号	45010090
授業科目名	●海洋環境科学概論		
編集担当教員	北村 等		
授業担当教員名(科目責任者)	北村 等		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	北村 等,武田 重信		
科目分類	開放科目		
対象年次	1年,2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生(クラス等)	全学部(水産学部を除く)		
担当教員Eメールアドレス	北村 等 (kitamura@) 武田 重信 (s-takeda@)		
担当教員研究室	北村:水産学部本館1階 武田:水産学部本館3階		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	授業前後が望ましい 随時受け付ける メールでも可		
授業のねらい			
授業方法(学習指導法)			
授業到達目標	<input type="checkbox"/> 人間の活動は環境を変化させ、そこに棲む生物に様々な影響を与える。ここでは現在問題になっている水質汚濁および地球環境問題等を通して、生物と海洋環境の相互作用の基礎に関して理解する。 <input type="checkbox"/> 現在問題になっている環境問題に関して、自ら調べて学び、説明でき、またそれに対して将来の水産技術者として意見をもつ。		
授業内容	【概要】 前半は海、湖沼、河川の水質とその汚濁について概略し、それを基に環境と生物の相互作用について考察する。後半は地球環境問題との関わりを中心に、グローバルな物質循環系の中での海洋環境と生物活動の役割について概説する。 【計画・内容】 第 1回:オリエンテーション、環境とはなにか 第2・3回:水質について(海、湖沼、河川) 第4・5回:水質汚濁(海、湖沼、河川) 第6・7回:環境と生物の関わりについて 第8・9回:地球環境と海洋生態系 第10・11回:炭素循環への海洋の関わり 第12・13回:地球温暖化と海 第14・15回:海洋汚染 前半(1~7回)は北村が、後半(8~15回)は武田が担当する予定。		
キーワード	生物と環境、水質汚濁、地球環境		
	参考書(図書館にあり)		

教科書・教材・参考書	「水の分析」(化学同人)、「新しい生態学」(BIOCITY)、「海知られざる世界」(NHK)、「地球温暖化と海」 「海と地球環境」(東京大学出版会)、「海と環境」(講談社)、「地球環境化学入門」(シュブリンガー・フェアラク東京)
成績評価の方法・基準等	北村(小テスト20%, レポート80%) 武田(授業への参加状況20%, レポート80%) 水質や地球環境問題について理解し、概略が述べられれば合格(両者の平均点が60点以上)。
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	わからないことをわからない状態で終わらせず、調べたり質問等すること。 メールアドレスは@のあとに nagasaki-u.ac.jpを付けて送信のこと。



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.